



大井町を紹介します

当町は、東京から約70km及び横浜から約50km圏内にあり、神奈川県西部、足柄上郡の東部に位置し、南は小田原市に接し、西は酒匂川を境に開成町に隣接し、北は松田町と秦野市に、東は中井町にそれぞれ接し、東西5.62km、南北5.18km、総面積14.41km²となっています。

当町の地勢は、西部が開けて平地をなし、東部は丘陵が起伏しています。

また、北は松田町を経て丹沢山塊に、西は酒匂川を隔てて箱根連山に取り囲まれ、さらに東は大磯丘陵を背後に受け、南は小田原市を経て相模湾に達しています。

寒冷な北風はほぼ防がれ、冬季でも温暖な南風が平地を覆っています。

現在の人口は、約1万8000人であり、町の花は「すいせん」、木は「キンモクセイ」、鳥は「めじろ」です。

特産品には、みかん、いちじく、ひょうたんの加工品等があります。

この地域は、古くは「大井の庄」と呼ばれ、現在の大井町は、昭和31年4月、金田、相和の2村と曾我村のうち上大井、西大井の2地区が合併して誕生しました。

田園都市づくりへの取り組み

都市計画法の改定を契機に、当町は地域固有の特性を考慮しつつ、将来の都市づくりの方針を描く「おおい都市マスタープラン」を平成7年度に策定しました。

しかし21世紀を迎え、社会状況



町の全景

の変化や当町の課題を踏まえマスタープランの進捗状況を検証し、見直しを行うなど、平成27年度に都市づくりの目標が達成できるようマスタープランの改訂に着手することとしました。

新たな都市づくりの目標は、町総合計画「夢おおい21プラン」における「あしがらの環境と調和した健康なまち」を受け目標を検討しています。



平坦部

丘陵部の地域づくり

当町は、大きく平坦部地域と丘陵部地域に区分される構造です。平坦部はJR御殿場線及び国道255号等の主要な交通軸に沿って形成された市街地と、酒匂川沿いの農地により構成されています。

他方、丘陵部は東名高速道路が地域の中央を東西に通過しており、大きくは南北に分かれ、樹林地と農地により構成されています。

丘陵部は自然環境に恵まれた地域として、将来もこの長を活かした都市づくりを目標とします。

今回の見直しでは、丘陵部は、今後、人口減少が進むと予測され、既存集落の環境整備により人口の維持を図りながら、

緑豊かな都市づくりを目指します。

例えば、丘陵部の集落を取り囲み面的に広がる緑地は樹林地区域として位置づけ、集落が広がる集落区域では集落環境の向上を図ります。

また「いこいの里・相和」構想に基づき、おおいゆめの里の整備を推進し、丘陵部地域の核となる拠点の形成を図ります。

さらに、平坦部と丘陵部を結ぶ道路や丘陵部各集落を結ぶ道路など、地域の拠点の連絡性を高める道路網の形成を図り、新たな魅力を創出します。



丘陵部

このような将来の都市づくりの目標が達成できるよう、平成20年3月までに改訂作業を進めてまいります。

(都市整備課)